

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念の中に”地域と積極的に関わりをもつ”と掲げています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の朝礼時、管理者と職員は理念を読み上げています。特に家庭的なホームになれるよう、日々努めています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族、地域の方々が来所された際、すぐに『理念』が目に入るよう、玄関に掲示させていただいています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>包括支援センター及び地域のグループホームと協力し合い、介護予防の寸劇を見せたり、児童館・小中学校とも交流をもち、地域に努めております。又、当グループホームはキャラバンメイトの事務局でもあります。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己・外部評価で指摘された改善すべき箇所は、出来るだけ早めに改善しています。良く行われている箇所に関しては、職員に対し褒めている。継続していくようにしています。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族や地域住民等、会議参加者の視点からホームを見ていただき、質問を受けたり、ホームでの現在取り組んでいる事を話し合っ、更なるサービス向上を図っています。</p>	<p>今後も引き続き、家族・地域住民等の協力をお願いして会議を開催して行きたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日ごろから市町村と関わるようにし、事業所のサービス向上に取り組むようにしています。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、権利擁護の制度を利用されている入居者がいます。又、権利擁護に関する理解(職員に対して)については、外部の研修参加にて学ぶ機会を設けています。</p>	<p>更に、深く学び職員に浸透できるように内部研修を開催したい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム外、並びにホーム内での研修により、虐待の原因、種類、予防法等、様々な観点から全スタッフで学びを深めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動・離職は今現在なく、馴染みの関係を築いています。職員の異動(別ユニットへ)があった場合、職員・利用者は自由に行き来できる環境づくりを心がけています。管理者は職員とコミュニケーションを多く取り、又、職員同士も密にコミュニケーションを取るようにしています。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部への研修は積極的に参加できる環境にあります。又、外部で学んだことを職員全体に広めるよう、内部研修を月に一度開催しています。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>『相互評価』(自ホームとその他2つの事業所が交流し合い良い評価を見つけ出すことを目的とする)をしています。その他、近くの同業者と常に情報を共有しあっています。</p>		<p>今後も職員各々が外部研修にて知り合った同業者と交流を図っていきたいです。又、現在取組んでいることを継続していきたい。</p>
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>お昼休憩(1時間)を設けて、別空間にて休んでもらっています。又、業務上のストレスに関しては、職員同士で話し合うようにし、解決に向けて管理者を交えて話し合うようにしています。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は定期的にホームに来て、管理者・職員に対して向上心を持って働けるよう労い、励ましの言葉をかけて、又、自分自身(職員個々の)抱負を掲げています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が面会等で来所する場合、主に本人の近況を報告しています。職員一同、本人の立場になってケアにあたっております。</p>		
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人と家族との関係には十分に配慮しています。</p>		
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔からの友人・近所の人たちとの面会を快く受け入れています。場合によっては外出をし、関係が途切れぬよう支援しています。</p>		
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>仲の良い利用者が輪になり、雑談したり、レクに参加しています。孤立しそうな利用者が居れば、職員が傍に寄り添い関わっています。</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>契約終了後でも、関係を必要とする利用者・家族へはアドバイス等の対応をとるようにしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人との会話を重視しています。常に職員は”私がその人だったら...”と自分に置き換えて対応するように心掛けています。優しさがちゃんとあるようなケアにもあたっています。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>アセスメント表作成により、関わる職員に情報の把握を努めています。又、本人・家族等と会話する中からも情報を収集しています。</p>	<p>センター方式を用いて更に深い個々の生活歴を知りていきたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個別のケースに記載(日中・夜間の様子)し、その他些細な事柄に関しては、職員間にて口頭或いはノートにて連絡しあい把握しています。必要に応じては管理者にも報告しています。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>まず、ケアプランの課題を一つに絞って取り組んでいます。そのことによって職員がケアに集中できる又、家族にも説明し、意見があった場合は素直に聴き反映させていただいております。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>出来るだけ本人の評価できる面を維持・向上していただけるように『褒める』『共に喜ぶ』『自信を取り戻してもらう』を掲げて各々の介護計画を作成しています。本人と話し合い又、家族とも相談しながら職員一人ひとりが担当を持って日々行っております。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々のケース記録(介護計画に添った内容と記載者自信の気づき等)を毎日行っています。全職員がケース記録を確認して重要事項に関しては、口頭でも伝える習慣をつけています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>要望があればその都度対応するようにしています。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域資源を十分に活用しながら、主に小学校との交流・ボランティアと積極的に関わりを持っています。</p>		
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の他ケアマネジャーと協力体制をとっております。</p>		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターが近くにあり、協働しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と十分に会話をしています。出来るだけ希望に沿えるようにしています。救急の場合に関しては当ホームが連携している医療機関の対応となっております。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の協力のもと、職員に適切なアドバイスをしたり、利用者の状態により定期的な往診・受診を受けています。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーション(月に2～3回)利用により、看護と入居者、看護と介護の関係作りがされていて、その他必要に応じ電話での相談も実施しています。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した利用者の状態を病院関係者から情報交換という形で連携をとっています。(早期の退院に向けての意味も含めて)		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今現在、終末期ケアが行われておらず、重度化の場合は、家族・かかりつけ医と相談・話し合いをし、方針を決めています。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今現在、終末期ケアは行っておらず、又、重度化、救急の場合は、連携医療機関へ連絡し、対応を図っております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え前から関係者間で話し合い、情報交換を行っており又、住み替え後もその都度情報交換をしてダメージを最小限に止めております。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一同、全利用者に対して言葉遣いは”やわらかく””優しく”を念頭において日々接しております。プライバシー、個人情報にかんしても、十分に配慮しております。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側から傾聴する姿勢で日頃から対応しており、個々の力に合うように支援しています。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活全般において、利用者主体を心掛けて、その人が今日一日なにをしたいのかをうまく引き出し、コミュニケーションを重ねて見つけたし、ゆたったりと添うようすすめています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出来るだけ本人の好みを取り入れています。美容に関しては地元の美容院が2～3ヶ月に1回来所し、本人の要望を聞きながら行っております。その他の理容、美容は、本人からの望みがあれば応じています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆったりと落ち着いて食事を摂れる雰囲気作りを心掛けています。利用者と共に食事の準備・後片付けをおこなっております。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては、出来るだけ本人の希望に沿って提供させていただいておりますが、健康面にも配慮し、医師ともそうだしながらケア・支援にあたっています。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗やおむつ使用の軽減を図るよう、個々の状態により、声掛け・誘導を行っています。又、排泄時の羞恥心への配慮も怠ることなく接しています。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴予定を決めているものの、本人からの希望(予定日以外や拒否)により対応しています。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜限らず、個々のその日の状態により対応しています。例えば日中、役割・活動をしてもらう等。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴を把握し、得意とする分野で活躍できるよう、励ましながら寄り添い支援しています。		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人から又は、家族からの要望により金銭を所持してもらっています。ホームに訪問される販売(ヤクルト・パン・寝具屋など)に関しても、希望により購入されています。		現在は本人からの欲しい物を聞いてスタッフが購入代行することが多いが、今後、可能な限り本人も連れて買い物に行きたい。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的に寒くなると、外へ行きたがらない経口がありますが、希望がある場合は、ドライブを中心に外出しています。		温かくなると、ホーム周辺の散策に出かけ、気分転換を図りたいと考えております。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	不定期ではあるが家族の協力のもと、個々でドライブ・外出をしています。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙でのやり取りに関しては、常時自由に行っております。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等が来所時には、職員は明るい挨拶をし、近況を報告させて頂いております。飲み物もご提供させて頂いております。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、外部研修後、全職員に拘束の意味・危険性等を学んでおります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関等の鍵は掛けておりません。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のプライバシーには十分に配慮しながら、他者との共有する時間・空間作りを行っております。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭的な雰囲気を重視しており、全職員が注意をしながら保管・管理に努めています。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に関しては、常に日頃から全職員が徹底して取り組んでおります。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故発生のマニュアルを全職員が見やすい場所に貼っております。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に関しては、運営推進会議の中でも話題に出てきており、町会長や小学校の校長と連携を図っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活の質の向上を図る上で、起こり得るリスクに対しては、家族に説明しています。”その人らしさ”を重視し生活しています。同じく、家族との会話・説明も大切にしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子(表情・言動等)があれば、職員間で伝達しあい、管理者に報告し、必要に応じて連携医療機関に連絡・通院・往診を実施しています。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、利用者一人ひとりの薬剤情報をケースに挟み、日々見て確認するよう努めています。臨時薬が処方された場合は、様子観察を忘れずに実施しています。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に関しては、内部研修に取り入れて学習しています。		個々の水分チェックを毎日行い、それに伴い排泄チェックにて確認・聞き取りしています。便秘時にはいち早く発見し、乳製品や繊維の多い食品を提供しています。
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で行える利用者に関しては見守りをしています。介助を要する方は上手に声がけし、口腔ケアにもっていきます。		どうしても拒否される利用者には無理強いせず、時間をかけて再度声掛けしています。内部研修にて、口腔内の清潔を保たないと、肺炎等になるリスクが高いと学んでおります。
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・バランス・盛り付けに至るまで、利用者一人ひとりが気持ちよく食事出来る様に配慮しています。毎日、摂取量(食事量・水分量)をチェックしています。		食事や水分をどうしても摂って頂けない利用者に対しては、代用品(ゼリー・パン等)を準備し、いつでも提供できるようにしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザに関しては、予防注射を利用者・職員と施行しています。その他の感染症の予防は資料にてキッチンに掲示しています。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理担当者が主に食材購入・管理しています。キッチンやその周辺、冷蔵庫内の掃除を日々遂行しています。その他の職員も調理に関わる際は同様。		職員全体で出勤時・退勤時の手洗いうがいを遂行しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	今の時期は敷地内の雪かきを行い、利用者家族や地域の人たちが出入りし易いように配慮しています。		敷地内に大きく目立つように看板を設置させていただき、当ホームのシンボルである「てるてる坊主」がより一層親しみさをましています。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を資格にうたえる目的で、主として花を飾っています。共用空間には必要最低限な物を置いて整理整頓を常に心掛けています。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが自分の居場所が自然と決まっており、ゆったりと思い思いにすごしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に関しては、本人が居心地よく過ごせるように、今まで使ってこられた布団や愛用品を持ち込んで工夫しております。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空気がこもらないよう、その日の利用者の状況に応じて換気を行っています。乾燥しすぎないよう、夜間は濡れタオル使用等にて対応しています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手摺を設置し、転倒しないよう安全に配慮しています。リビングは段差のないバリアフリーになっています。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>レクリエーションを通して、集団で物事を行うことで利用者・職員が支えあうことで工夫しています。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>利用者が集うリビングや廊下には季節を感じられるように飾りつけを行ったり、利用者・職員が作成した塗り絵、絵画を展示しています。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所名「てるてるぼうず」にちなんで、心が曇っていても、雨降りでもいるもスマイル(笑顔)を心掛けております。特に力を入れている点として「5S」の徹底・維持です。環境(ハード面)がすっきりすることで、入居者への対応、スタッフ間での接遇(ソフト面)も円滑になっています。スタッフ一人ひとり顔が違うように、みんな個性的でいっぱい良いところがあります。今までは恥ずかしくて言えなかったけど、これからは口に出して”ほめていきますよ～”「花には水を、人には愛を」。